

第4回 雇用の多様化と正規・非正規雇用

◎今回の概要:

正規雇用と非正規雇用について考えます。雇用の多様化が叫ばれている現在、正社員や契約社員、パート・アルバイト、さらに派遣労働者、様々な形態で労働者が働いています。雇用の流動化・不安定就業といわれる中、産業構造の変化とグローバル化がどのように働く人の雇用に変化をもたらしているのか、取り上げます。

◎非正規労働者の現在: (※主に、下記佐賀本による)

○働き方の現状:

- ・就業者の状態: 自営業者・家族従業者: 30年間で800万人減少→雇用者へ
正規労働者: 15年間で550万人増加、1997年ピークの後、減少し2012年にもとに戻る
非正規労働者: 1997年以降 780万人増加
 - ・非正規労働者とは: 雇用期間:有期、勤務時間:短時間 のいずれか: 不安定な雇用状態
 - ・働き方の基準: 安定雇用・高賃金⇔失業・低賃金 長時間・過密労働 ⇔ 安全な働き方
労働基準:法制度・労働協約、実効性あるものに: 監督制度・労働組合の力量(規制力)
ディーセントワーク
 - ・雇用形態別: 非正規が当たり前の時代:雇用者の38.2%(2012年):入職者の60%
パート・アルバイト・派遣等:家族の誰かひとり非正規が当たり前、中には全員が非正規
「自発的選択型」から「やむをえず型」へ
 - ・非正規の年間所得: 2002→12年の所得変化:200万円未満層の低所得層:4分の3:75%
・特に女性の低所得層: 84.3%
 - ・非正規の長時間労働・低賃金:週60時間働いても200万円未満:300万円未満層も:低賃金
 - ・非正規の時給:男1388円で年間2000時間・年収280万円 女:2000時間200万円余
シングルマザーでのダブルワーク、トリプルワーク 同一労働同一賃金原則がない日本
 - ・「名ばかり正規雇用」:「名ばかり正社員」「周辺の正社員」の拡大
雇用期間が限定で正規と呼ばれている場合がある;期間の定めがある十分からない 257万人
雇用契約無・雇用契約期間不明 定昇なし・ボーナスなしの求人 正規と非正規の境界があいまい
 - ・自立型非正規雇用が多数派:主な収入源が非正規、非正規の自分自身の収入で暮らす人が半数に迫る
- 働き方の貧困・ブラック化する労働:
- ・長時間労働・過労死・うつ病蔓延: 非正規でも精神障害が1割を占める
 - ・深夜に働く労働者の増加: 4%~5%が深夜に働く
 - ・入職・離職の高い業種: 宿泊業・飲食・生活関連サービス、娯楽業、教育・学習支援、サービス業
- なぜ、非正規労働者が増えたのか
- ・グローバル化、女性の社会進出、自営業者の減少、産業構造の変化、技術革新

◎正規雇用・正社員の変化と新型・日本的経営

○日本的雇用慣行：その後

・一般労働者と標準労働者：

常用労働者：期間定めず、1カ月超える、18日以上

一般労働者：常用労働者のうち、短時間労働者でないもの：一応、長期雇用を歩んでいるもの

標準労働者：学校卒業後、直ちに企業に就職し、同一企業に継続勤務しているとみなされる労働者

現在は、一般労働者に対する標準労働者の比率が減っている： 4割～3割

○正社員と呼ばれる人たち

・正社員の分化：限定正社員の登場 無限定社員の言葉まで出てくる

・「正社員」という用語の出現：1970年代後半から1980年代初め：

パートタイム労働者・パート社員との対比で使用される：一般社員と正社員が等値

○日経連『新時代の「日本的経営」』1995年 の目指すもの

・階層構造：雇用のポートフォリオ： A：長期蓄積型 B：高度専門型 C：雇用柔軟型

○正社員・正規雇用は、はたして安定していたのか、安定しているのか、

◎今週のビデオ

映画：『あゝ野麦峠』（1979年・監督：山本薩夫・主演：大竹しのぶ） ダイジェスト版

◎参考文献

伍賀一道『「非正規大国」日本の雇用と労働』新日本出版 2014年

森岡孝二『雇用身分社会』岩波新書 2015年

小倉一哉『「正社員」の研究』日本経済新聞社出版 2013年

今野晴樹『ブラックバイト』岩波新書 2016年

今野晴樹『ブラック企業』文春新書 2012年